

ワクチン情報文書

ポリオワクチン： 知っておくべきこと

Many Vaccine Information Statements are available in Japanese and other languages. See www.immunize.org/vis

多くのワクチン情報の説明が、日本語やその他の言語で利用することができます。
www.immunize.org/vis をご覧ください。

1. ワクチン接種を受ける理由は？

ポリオワクチンはポリオを予防できます。

ポリオ(またはポリオ脊髄炎)は、身体障害を引き起こし、生命を脅かす病気で、ポリオウイルスが脊髄に感染すると、麻痺になります。

ポリオウイルスに感染した人のほとんどは症状がなく、多くは合併症なしで回復します。人によっては、のどの痛み、発熱、疲労感、吐き気、頭痛、腹痛などが起こります。

少数の人に、脳と脊髄に影響を与えるより深刻な症状が出ます。

- ・ 知覚障害(脚にピンや針が刺さった感覚)
- ・ 髄膜炎(脳および/または脊髄の被膜の感染症)
- ・ 麻痺(身体の一部を動かさない)または腕、脚、またはその両方の脱力感。

麻痺はポリオに関連する最も重度の症状であり、一生残る障害になったり、死に至る可能性があります。

四肢麻痺の改善が起こることもありますが、15～40年後に新たな筋肉痛や筋力低下が起こることもあります。これをポストポリオ症候群と言います。

米国内のポリオは撲滅されましたが、世界の他の地域では依然発生しています。自分自身を感染から守り、米国のポリオをなくす最善の方法は、ワクチン接種を通じてポリオに対する高い免疫(保護)を維持することです。

2. ポリオワクチン

小児は、通常4回、ポリオワクチンの接種を受ける必要があります。接種時期は、生後2か月、4か月、6～18か月、4～6歳です。

ほとんどの成人は、すでに幼少期にポリオの予防接種を受けているため、ポリオワクチンは必要ありません。しかし、以下を含む一部の感染リスクの高

い成人は、ポリオワクチンの接種を検討する必要があります。

- ・ 世界の特定の地域へ旅行する人
- ・ ポリオウイルスを扱う可能性のある検査技師
- ・ ポリオの感染の疑いがある患者を治療する医療従事者
- ・ ワクチン未接種の人で、その人の子供が経口ポリオウイルスワクチンを受ける場合(例:国際養子縁組者や難民)

ポリオワクチンは、単独のワクチンとして、または混合ワクチン(複数のワクチンを1回の注射で接種するワクチンの一種)の一部として接種することができます。

ポリオワクチンは他のワクチンと同時に接種してもかまいません。

3. 担当の医療従事者にご相談ください

以下のような方がワクチンを受ける場合には、担当するワクチン接種を行う医療従事者にご相談ください。

- ・ 過去にポリオワクチンの接種後にアレルギー反応を起こしたことがある、または重度の生命を脅かすアレルギーがある

場合によっては、担当の医療従事者がポリオワクチンの接種を次の来院まで延期するように判断する場合があります。

風邪などの軽い病気にかかっている場合でも、ワクチン接種を受けることができます。病気が中程度または重度の場合は、回復してからポリオワクチンを接種するほうがよいでしょう。



U.S. Department of
Health and Human Services
Centers for Disease
Control and Prevention

妊娠中または授乳中の方への本ワクチンのリスクに関する情報は限られています。しかし、妊娠中の人で感染リスクが高く、早急に感染を予防する必要がある場合は、ポリオワクチンを接種することができます。

詳しい情報については、担当の医療従事者にお尋ねください。

4. ワクチン反応のリスク

- ・ポリオワクチン接種後には、注射した部位の赤みや腫れ、痛みなどの反応がみられることがあります。

ワクチン接種を含め、医学的な処置により失神する方もいます。目まいや視力の変化、耳鳴りなどを感じたら、担当医療従事者にお伝えください。

どんな医薬品でもそうであるように、ワクチン接種により重度のアレルギー反応や、その他の重篤な傷害や死亡が起こる可能性はごくわずかにあります。

5. 重度の問題が起きたら？

アレルギー反応は、ワクチン接種を受けたクリニックからの帰宅時に生じることがあります。重度のアレルギー反応の症状(蕁麻疹、顔やのどの腫れ、息苦しさ、速い鼓動、目まい、倦怠感)があった場合は、9-1-1に電話し、最寄りの病院を受診してください。

気にかかる他の症状がある場合は、担当の医療従事者にお電話ください。

有害反応は、Vaccine Adverse Event Reporting System(ワクチン有害事象報告システム:VAERS)に報告する必要があります。通常、担当の医療従事者がこの報告書を提出しますが、あなたもご自身で提出することができます。VAERSのウェブサイトにごアクセスいただくか www.vaers.hhs.gov、1-800-822-7967までお電話ください。VAERSは反応の報告のみを目的としているため、VAERSのスタッフは医学的な助言は行いません。

6. 全米予防接種傷害補償プログラム

National Vaccine Injury Compensation Program(全米予防接種傷害補償プログラム:VICP)は連邦プログラムであり、特定のワクチン接種により傷害を受けた可能性のある方々に補償するため設立されました。ワクチン接種による傷害または死亡の疑いに関する補償請求には提出期限があり、2年という短期間の場合があります。VICPのウェブサイト www.hrsa.gov/vaccinecompensation をご覧になるか、1-800-338-2382までお電話いただき、プログラムの詳細および補償請求の方法についてご相談ください。

7. 詳しい情報を知るには？

- ・担当の医療従事者にお尋ねください。
- ・お住まいの地域または州の保健局にお電話ください。
- ・ワクチンの添付文書および追加情報については、Food and Drug Administration(米国食品医薬品局:FDA)のウェブサイト www.fda.gov/vaccines-blood-biologics/vaccines をご覧ください。
- ・Centers for Disease Control and Prevention(疾病管理予防センター:CDC)にお問い合わせください。
 - 電話 1-800-232-4636 (1-800-CDC-INFO)または
 - CDCのウェブサイト www.cdc.gov/vaccines をご覧ください。

Japanese translation provided by Immunize.org

